

藤井純子関係資料を大学文書館で受贈

大学文書館では、藤井寛治氏から、2月14日（水）・23日（金）、4月5日（木）に、ご夫人の藤井純子氏（1936-1994、旧姓：四方）にまつわる資料3箱をご寄贈いただきました。

藤井純子氏は、1956（昭和31）年4月一般教養部理類に入学し、1960年3月農学部農芸化学科を卒業されました。卒業後は、農学部農芸化学第二講座助手に着任し、生化学や栄養学の研究を行いました。1961年には「家政学部」新設の計画に際し、「食品化学」研究を目的として、アメリカのマサチューセッツ大学に派遣されました。この計画は実現しませんでした。藤井純子氏は、光塩学園女子短期大学の教員として、また、医学部公衆衛生学講座の研究生として、その後も研究・教育活動に従事されました。

この度、受贈した資料には、幼少期からの写真画像、農学部学生時代の受講ノートや助手時代のゼミ用ノート、アメリカ派遣中に収受した各種資料・

写真画像・受講ノート・日記、光塩学園女子短期大学勤務時の日中科学技術交流の報告・研究資料、「北大女子学生の会」に関する資料等があります。

アメリカ派遣中の日記には、現地での教授や学生との交流のほか、化学研究への熱意が述べられる一方で、当時の女性研究者をとりまく厳しい実状なども綴られています。

また、新制大学初期の女子学生たちの組織「北大女子学生の会」に関する資料には、機関誌『根っこ』創刊号（1960年）や『女性に関する解析Ⅳ』などがあり、1950～60年代における女

子学生の学生生活が読み取ることができます。これらの資料は、大学史・教育史・女性史における大変貴重な史料です。

今後、受贈資料は、大学文書館において整理・保管し、閲覧・展示などを通じて広く紹介してまいります。

（大学文書館）



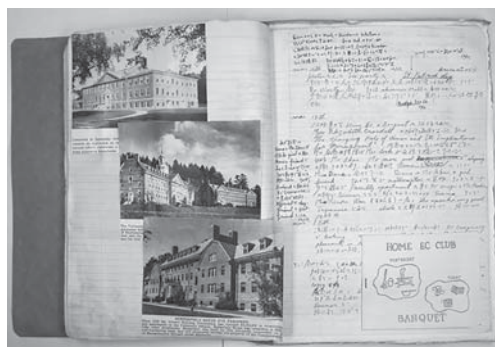
農芸化学実験室にて（1960年6月）



アメリカにて



「北大女子学生の会」の機関誌



マサチューセッツ大学派遣中の日記